

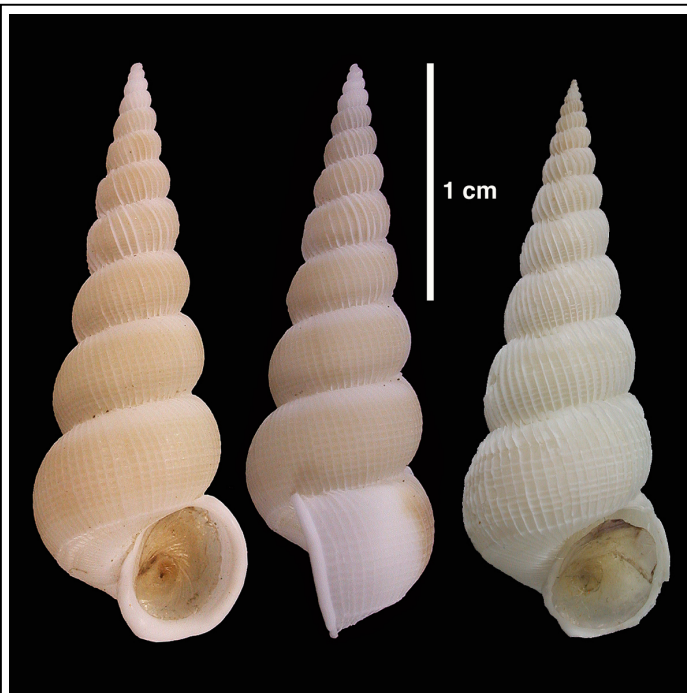
クリンイトカケ *Amaea thielei* (de Boury)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村, 1996a,b; 木村, 1999; 木村, 2000)。和田ほか(1996)では、希少とランクされている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 25 mm の高い塔型で、殻は白色から薄いクリーム色で殻質は薄い。殻表は細かい布目状彫刻がある。殻口は太い縦張肋で肥厚した状態になる個体(図左、中央)が多いが、不規則に太い縦張肋ができた後にも成長する個体、大型個体でも殻口に縦張肋が出ることがなく、殻口が肥厚しない個体(図右)など変異に富む。蓋は革質で淡黄褐色。



南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 2-4 m), 1994 年 10 月 10 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように湾口部を中心に生貝は確認されているが、死殻は名古屋港沖、蒲郡市沖でも採集されている。いずれにしても生息地は少なく、生貝の個体数も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、三河湾奥(蒲郡市沖)では古い死殻が稀に採集されるのみで、生息状況は確実に悪化している。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996a. クリンイトカケガイとコガタクリンイトカケガイの分類学的再検討(腹足類・盤足目:イトカケガイ科). ユリヤガイ, 4 (1・2): 103-108. 山口県貝類研究談話会.
木村昭一, 1996b. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)